



書評

[評者]

原田 侑典

獨協医科大学総合診療医学・
総合診療科准教授

パッカーのケースレポート 執筆完全ガイド

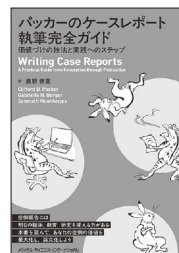
価値づけの技法と実践へのステップ

鹿野 泰寛 訳

●A5 頁208 2025年9月

定価 4,620 円 (本体 4,200 円+税 10%)

[ISBN 978-4-8157-3141-0] MEDSi 刊



本書は Clifford D. Packer 先生らが執筆した, “Writing Case Reports : A Practical Guide from Conception through Publication” の翻訳版である。Packer 先生の症例報告は, 一度読むだけでケースを鮮明に思い起こさせるもので, 推論過程を追える明瞭さがあり, 仮説提示へ至るまでの流れるような筆運びは「まさに王道!」と唸るものばかりである。彼は数百を超えるケースレポート執筆の教育経験があり, 症例報告の神髄を知り尽くした人物で, その教えはシンプルである。考察 (Discussion) では症例を文脈の中に位置づけ, 説明するための仮説を構築し, 説明を超えて症例が示唆するものに言及し, 教育的ポイント (Teaching point) を付して締めるスタイルを推奨している。特に, 症例を文脈の中に位置づけることを重要な点として強調しており, 文脈に従って最適な報告スタイルと論理展開を選ぶことが「価値づけの技法」であり, 本書ではその技法が余すことなく記述されている。

さて, 今回, Packer 先生のケースレポートへの熱い思いを伝える役目を担ったのが, 訳者の鹿野先生である。彼は医師8年目にして症例報告を約70編出版し (『BMJ』や『JAMA』も含まれる), 日本内科学会総会で症例報告の教育講演を行うに至った傑物で, 自著「クリビク本」で大ブレイク中である (『ひとり

でも書ける症例報告 クリニカルピクチャー論文のすすめ』中外医学社)。鹿野先生のケースレポートは, 教育的視点を伝える技巧が最大の魅力だと思われるが, 物語性を強調するものや, 新たな仮説と示唆を提示する鮮やかな論理展開を見せる王道ものまで, カバー範囲は広い。Packer 先生の理想を体现したような人であり, 彼が訳者になったことは必然であろう。鹿野先生が心に Packer 先生を宿した結果, 本書は単なる翻訳を超え, さらに深い世界へと読者を誘うものになっている。例えば, 原著ではさらっと書かれた文章に訳者独自の引用をつけてくれるほか, 豊富な訳注を通して鹿野先生から医学知識の挑戦を受けたり, 文学に関するミニ知識を学ぶこともでき, どこまでも楽しめる作りになっている。

本書は単なる執筆指南書を超えた, ケースレポートの魅力を存分に堪能できる総合書であり, 読み物としても面白い。ビブラートを失ったバイオリニストの物語 (診断はわかる?) は, 1本の短編小説としても読める美しさがある。さらに, とある症例報告によって執筆者が世界的企業も絡んだ大事に巻き込まれていくというドラマのような話は, 後半のオチも含めた見事な展開になっており, 最後まで目が離せない。一度読み始めたら一気読みしてしまうこと間違いなしである。